

# ティーチング・ポートフォリオ

山村学園短期大学 子ども学科  
学長・教授 野口 一夫

## 1 教育の責任

令和元年度の担当科目

科目名	学期	対象学年	種別	受講者数	備考	
保育内容 環境	前期	1年	演習	34名	1・2組	
	前期	1年	演習	36名	3・4組	
生 活	前期	2年	演習	35名	1・2組	
	前期	2年	演習	36名	3・4組	
保育・教職論	後期	1年	講義	70名		

## 2 教育の理念

2017(平成 29)年 3 月に幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂・告示され、平成 30 年 4 月から施行された。

私たち大人は、乳幼児期の子どもの世界から実に多くのことがらを学ぶことが多い。様々な自然の生き物に強く関心を持つ子どもからは、四季の変化や、自然界の魅力に目を向けてもらっている。乳幼児の教育・保育のあり方の原点として、レイチェル・カーソンの「センスオブワンダー」の言葉をかみしめたいものである。

1人ひとりの子どもにとって、環境とは、地域社会全体、あるいは地球環境という大きな環境という意味と、園や家庭、地域の身近な環境という意味もある。そういう意味では、環境には「広がりと重なり」があると言えるだろう。また前記の 3 つの要領や指針における環境の位置付けや、不足がちと言われる原体験、その中で本学の豊かな自然環境をどう生かしていくかを保育者養成校として追究していきたい。

乳幼児期の教育・保育を、保育内容「環境」として学ぶことは、「身近なところ～足元」から「世界に目を向けて～地球規模で考え」という、ロマンあふれる創造につながっていくことを期待しながら。

### **3 教育の方法**

#### **(1) 保育内容 環境**

##### **【ねらい】**

幼児を取り巻くさまざまな環境や幼児と環境の関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。

##### **【到達目標】**

環境を通して行う教育・保育の基本を理解し、身近な環境との関りを具体的な生活事例（製作・遊ぶ活動）を通して実際に体験的に学ぶことができる。

環境を、広い意味や保育内容「環境」としての意味を理解し、具体的な体験・経験のなかで身に付けていく。

環境とは、領域「環境」とは、環境を通して行う教育・保育の基本を理解し、幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解することができる。

#### **(2) 生 活**

##### **【ねらい】**

ファームで野菜を育てて現場で役立つ実践力を養い、自然（風・音）と遊びながら、「エコカラタづくり」を通して環境との関わりを学び、保育園・幼稚園と小学校の連携のあり方を習得することができる。

##### **【到達目標】**

幼児教育と小学校教育との接続・連携の重要性を認識し、幼児教育の特性を再認識するとともに「自立の基礎を養う」意義を理解することができる。

「生活科」は平成4年度から小学校低学年に新設された教科。この教科誕生の背景の一つに保育所や幼稚園のいわゆる幼児教育と小学校教育との接続・連携がある（新教育要領・保育指針・こども園教育保育要領にも明記）。授業では「生活科」の趣旨・内容の理解を通して、改めて幼児教育の特性を再認識し、保育の視点を明らかにする。

#### 4 教育の成果、評価

令和元年度前期定期試験前に学生に対して授業アンケートを実施。

- 問 1   ・欠席又は遅刻・早退をせずに受けましたか。  
      ・私語を慎んで授業を受けましたか。  
      ・授業の要点をノートにとっていましたか。  
      ・シラバスは授業内容や評価の基準等を知るうえで役に立ちましたか。  
      ・予習・復習及び技術向上のための都力をして授業に臨んでいましたか。・  
問 2   ・授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。  
      ・授業内容のレベルは適切でしたか。  
      ・授業の進度（速さ）は適切でしたか。  
問 3   ・教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったです。  
      ・授業の説明の仕方はわかりやすいものでしたか。  
      ・授業中の板書や機器の利用は適切でしたか。  
      ・教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。  
      ・教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。  
      ・学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。  
問 4   ・全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。  
問 5   ・授業の感想を自由に述べてください。

##### (1) 保育内容 環境

5. 0 (満点)

問 1

1・2組   平均 4. 7 4  
3・4組   平均 4. 5 9

問 2

1・2組   平均 4. 8 2  
3・4組   平均 4. 6 4

問 3

1・2組   平均 4. 7 7  
3・4組   平均 4. 6 6

問 4

1・2組   平均 4. 7 9  
3・4組   平均 4. 5 4

### 自由記述欄

- ・授業がおもしろい、楽しい
- ・自然豊かな山村短大の環境を活かした授業であった。
- ・草花や動物などのなどの実物体験ができてよかったです。
- ・五感を刺激する授業でとても良かった。
- ・植物のスケッチやいろいろなあそび、野菜の観察などたくさんの体験を通して学ぶことができた。

## (2) 生 活

### 問 1

1・2組 平均 4. 0 2  
3・4組 平均 4. 2 2

### 問 2

1・2組 平均 3. 7 7  
3・4組 平均 4. 1 1

### 問 3

1・2組 平均 3. 9 6  
3・4組 平均 4. 8 3

### 問 4

1・2組 平均 3. 9 3  
3・4組 平均 4. 0 6

### 自由記述欄

- ・自然に触れ合えて楽しかった。
- ・自分で植え、育てた野菜をBBQとしていただきて食育となった。
- ・演習らしく、教室外に出ての観察などの体験が楽しかった。
- ・山村短大の自然環境を活かした授業であった。

## 5 教育の改善に向けた今後の目標

### (1) 保育内容 環境

短期的目標	<p>○保育内容 環境に関しては、令和元年度子ども学科より始まった新設科目のため、前年度との比較はできない。しかし、全て4点台後半の数字から見て学生の食いつきは極めて高い。</p> <p>○同じように授業を展開しても、1・2組と3・4組では受け止め方は違う。本年は1・2組の方が平均が高い。</p> <p>○質の問題もあると思うが、きめ細かな対応が功を奏していると思われる。例えば、毎回のプリント提出を受け、次回までに励ましのコメントを添えて評価し返却。そのコメントを楽しみにしている学生も多い。さらに欠席者については提出プリントと資料を渡し、1週間以内に提出を求め、他の学生から遅れないよう励ましとしている。15回中、節目に提出状況をチェックし、再度催促するとともに欠席回数やプリント提出が評価に大きく影響することをアナウンスしている。</p> <p>○出欠をとる際は、学生の顔をよく見て、時にはコメントを付け加え（例えば、プリントていねいに記入していたよ、前回欠席したのはどうして・・・等）この言葉かけが単なる返事よりも信頼関係を構築するうえで重要と思われる。普段からの情報共有が多い常勤と非常勤の違いが出るところである。</p>
長期的目標	<p>○T h i h k g l o b a l l y, a c t L o c a l l y “地球規模で考え、足元から行動せよ” “思索は世界的に、行動は足下をしっかりと固めて” というように解釈されている。</p> <p>環境問題の認識は多種多様で世界の国々や人々によっても大きく異なる。自然環境は価値が高く大切で守るべきものであるが、時として人間の経済活動のために過剰に使われがちである。それは人間が環境に対する知識・意識・情報が薄いままで、行動・生活をしていることに起因する。それを改善・解決していくためには、一人ひとりが問題を認識し、情報などを共有して行動することが必要である。つい「自分一人が行動しても変わらない」と思いがちだが、一人ひとりが行動を起こし、学校や会社、地域コミュニケーションを図ることで改善に向けて前進することができる。資源・エネルギーは有限である。その認識をしっかりととらえ、“もったいない精神”を常に意識し、資源のリサイクル、エネルギーの節約に努めたいものである。</p>

## (2) 生活

短期的目標	<p>○同じように授業を展開しても、1・2組と3・4組では受け止め方は違う。本年は3・4組の方が平均が高い。</p> <p>○全体的には昨年よりアップしている。質の問題もあると思うが、きめ細かな対応が功を奏していると思われる。例えば、毎回のプリント提出を受け、次回までに励ましのコメントを添えて評価し返却。そのコメントを楽しみにしている学生も多い。さらに欠席者については提出プリントと資料を渡し、1週間以内に提出を求め、他の学生から遅れないよう励ましとしている。15回中、節目に提出状況をチェックし、再度催促するとともに欠席回数やプリント提出が評価に大きく影響することをアナウンスしている。</p> <p>○出欠をとる際は、学生の顔をよく見て、時にはコメントを付け加え（例えば、プリントていねいに記入していたよ、前回欠席したのはどうして・・・等）この言葉かけが単なる返事よりも信頼関係を構築するうえで重要と思われる。普段からの情報共有が多い常勤と非常勤の違いがわかるところである。</p>
長期的目標	<p>○次年度はこの科目はなくなり、「環境の指導法」となる。生活の意図している内容は一部引き継ぐ。</p> <p>○領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科とのつながりを理解できる。</p> <p>○幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、領域「環境」の具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることができる。</p>

## 6 その他

### (1) ナチュラル保育検定への取り組み

保育士や幼稚園教諭に必要なことは、知識や技術だけではない。物事に興味をもつこと、「知りたい」という子どもに負けない好奇心を持ち、命の大切さや生きる力を育てることが大切である。本学の緑豊かなキャンパスに生きる動植物等を学び、自然に関する知識や遊びに関する保育技術の習得のために、「ナチュラル保育検定」を実施している。本年度はテキスト（冊子）と合わせてスマホ対応で検索できる方法を導入。

(2) 公務員（保育士・幼稚園教諭）試験への指導とアドバイス

東京都を含め、県内市町村の公務員試験の募集要項にのっとり、合格論文の書き方、面接の受け方、適性検査、一般教養・専門試験への指導を徹底

その結果OGを含め、平成30年度 5名、令和元年度 7名の合格者を輩出した。

## 7 エビデンス一覧

- (1) 各科目シラバス（保育内容 環境、生活）
- (2) 授業時配布プリント
- (3) 試験問題
- (4) 成績集計結果
- (5) ナチュラル保育検定
- (6) 公務員コース年間計画